

沿

革

袋井消防の沿革

昭和38年 4 月 1 日	袋井市は、諸般の情勢から消防本部及び消防署設置の必要を認め、消防組織法（昭和22年法律第226号）第10条第1項及び第3項の規定に基づいて袋井市消防本部及び消防署を設置する。 消 防 本 部（ 署 ） の 位 置 袋井市高尾 1135 番地の 5 管 轄 区 域 袋井市全域 職 員 数 消防本部・6 人 消防署・12 人 消 防 車 両 指令車（日産ジュニア 可搬ポンプラビット B－2 級積載） 団共有 消防車（ダッシュ、団より返還 一部改造） 以上の組織をもって発足する。庁舎は市役所第3会議室を使用。 上記の内、消防署勤務内定の12人は、昭和38年3月15日より浜松市消防本部に教養委託し一般教養訓練を受ける。
5 月 24 日	庁舎（市役所建物改造）事務室、仮眠室完成、移転し業務を行う。
8 月 5 日	車庫（鉄骨スレート）完成する。ホースタワーは大和ハウス工業より寄贈をうける。
12 月 24 日	消防ポンプ自動車（日産FR40 森田ポンプA－2 級）購入、入魂式及び披露式を行う。
昭和39年 1 月 2 日	開署当時の消防車、消防団第21分団に貸与する。
2 月 12 日	消防専用短波無線、基地局1基、移動局2基設置する。
昭和40年 1 月 1 日	消防本部、消防署設置が政令指定される。（政令第107号）
昭和41年 6 月 21 日	日本損害保険協会より消防ポンプ自動車（日産FR40 森田ポンプA－2 級）1 台寄贈される。 翌日消防団第15分団に貸与する。
12 月 1 日	静岡県西部6市消防団相互応援協定を締結する。 先に消防団第15分団に貸与した消防ポンプ自動車が返納され、消防署に配置、署の消防車2台となる。
昭和42年 3 月 22 日	職員定数条例改正定数27人となる。
昭和43年 5 月 2 日	法多山尊永寺より救急車（日産 セドリック C 型）1 台貸与され、法多山号と

	命名される。
9 月 20 日	袋井市救急業務取扱規程を制定する。
11 月 20 日	消防団第 21 分団に指令車（日産ジュニア 可搬ポンプ ラビット B－2 級搭載）を貸与する。
昭和 44 年 1 月 22 日	日本道路公団より救急車（日産セドリック B 型）1 台貸与される。
1 月 31 日	浜松市、磐田市、掛川市、菊川町の間で東名高速道路に関する消防相互応援協定を締結する。
4 月 1 日	職員定数条例改正、定数 32 人とし、実数 29 人となる。
4 月 17 日	救急業務が政令指定される。（政令第 97 号）
10 月 2 日	従来の短波無線から超短波無線に変更する。
昭和 45 年 3 月 11 日	日本道路施設協会の寄付金及び国庫補助により救急車（トヨペットクラウン A 型）1 台購入する。
3 月 16 日	消防用ホース 65 mm から 50 mm に変更される。
4 月 1 日	消防職員実数 32 人となる。
5 月 1 日	袋井市役所移転により旧庁舎の一部を改善し、事務室、通信室を移転する。
5 月 26 日	指令車を更新する。
昭和 46 年 4 月 1 日	隣接の森町、浅羽町を含めた袋井市外 2 町消防組合を発足 職員定数条例改正 57 人となる。
6 月 1 日	森町、浅羽町、消防本部、消防署の設置が政令指定される。（自治省告示第 110 号）
8 月 20 日	森分署、浅羽分署に配置する消防ポンプ自動車（日産パトロール FH 型 森田ポンプ A－2 級）2 台購入する。
昭和 47 年 3 月 16 日	森分署配属の救急車（トヨタハイエース 2 B 型）1 台購入する。
3 月 30 日	日本道路施設協会より救急車（トヨタハイエース 2 B 型）1 台寄贈され、浅羽分署に配置する。
3 月 31 日	森分署、浅羽分署の開署式を挙行、両分署にそれぞれ消防車 1 台、救急車 1 台、分署長以下 13 人で発足する。
4 月 1 日	森分署、浅羽分署業務開始、職員定数条例改正、定数 69 人とし、消防本部 7 人、本署 31 人、森分署 13 人、浅羽分署 13 人、実数 64 人となる。
6 月 1 日	森分署、浅羽分署に本署職員各 2 人を配置替え、15 人となる。
7 月 31 日	連絡車（トヨペットコロナ V）1 台購入、本署に配置する。

9 月 5 日	タンク車（日野 K L 300 森田ポンプ A－2 級）1 台購入、本署に配置する。
12 月 25 日	袋井市川井 996 番地の 2 に袋井消防本部（署）新庁舎落成、業務を開始する。
昭和 48 年 4 月 1 日	職員定数条例改正、定数 80 人となり、本部 10 人、本署 31 人、森分署 15 人、浅羽分署 15 人、実数 71 人となる。
5 月 1 日	森分署に本署職員 2 人配置替えし、17 人となる。
7 月 15 日	袋井消防署に救助隊結成、隊長以下 12 人で発足する。
昭和 49 年 3 月 15 日	救急指令装置を導入する。
4 月 1 日	消防職員増員により本署 36 人となり、総員 78 人となる。
8 月 30 日	森分署にタンク車（日野 K L 300 森田ポンプ A－2 級）1 台配置する。
昭和 50 年 4 月 1 日	消防職員増員により本部 12 人、本署 32 人、森分署 19 人、浅羽分署 17 人、実数 80 人となる。
11 月 5 日	日本損害保険協会より、消防ポンプ自動車（日産 F H 60 小池ポンプ A－1 級）寄贈、本署に配置する。
昭和 51 年 2 月 6 日	査察車（日産ブルーバード V 可搬ポンプラビット C－1 級 搭載）本部に設置、また本署に定置式可搬ポンプ（ラビット B－2 級）を配置する。
4 月 1 日	職員定数条例改正 84 人となり、本部 11 人、本署 35 人、森分署 20 人、浅羽分署 17 人、実数 83 人となる。
5 月 1 日	森分署に本署職員 2 人配置替えし、21 人となる。
昭和 52 年 3 月 4 日	袋井市外 2 町消防組合、袋井市消防団が消防庁長官表彰旗受彰
4 月 1 日	職員定数条例改正 86 人となり、浅羽分署に 2 人増員 19 人、実数 85 人となる。
5 月 27 日	森分署、浅羽分署に連絡車（三菱 H－J 26 可搬ポンプラビット C－1 級搭載）それぞれに配置する。
9 月 28 日	化学車 2 型（日野 K L 501 型 森田ポンプ A－2 級）購入、本署に配置する。
昭和 53 年 3 月 3 日	本署救急車（トヨタ P H 42 V P－J R T 2 B 型）を更新する。
7 月 20 日	森・浅羽分署に定置式可搬ポンプ（ラビット B－2 級）を配置する。
7 月 31 日	本署消防ポンプ車（日産 F H 60 森田ポンプ A－2 級）を更新する。
9 月 26 日	東京海上火災保険株式会社より広報兼地震対策車（三菱ジープ H J 46 9 人乗り可搬ポンプラビット C－1 級搭載）寄贈、本署に配置する。
9 月 30 日	本署車庫増築工事（鉄骨 99 m ² ）が竣工される。
10 月 20 日	情報収集用赤バイ（ホンダ C B 250）1 台購入、本署に配置する。

昭和54年 7 月 10 日	法多山尊永寺より査察車（日産サニーV）寄贈、本署に配置する。
8 月 21 日	総合気象観測装置の整備をする。
昭和55年 3 月 21 日	救助工作車（日野K L 505 ウインチ、クレーン、発電装置装備）購入、本署に配置する。
5 月 17 日	磐田信用金庫創立 30 周年記念により救急車 2 台寄贈され、森、浅羽分署救急車を更新する。
6 月 13 日	本署訓練場及び駐車場用地（1,140 m ² ）を購入する。
6 月 25 日	本署敷地内にコミュニティ防災センター（鉄筋コンクリート 267.62 m ² ）及び飲料用 100 t 水槽を竣工する。
昭和56年 3 月 25 日	袋井消防署にホースタワー（双葉ホースタワーA-22 型 540 万円）が完成する。
3 月 31 日	浅羽分署消防ポンプ車（日産F G 160A 森田ポンプA-2 級）を更新する。
5 月 1 日	袋井市同報無線開局に伴い、袋井消防署に放送装置を設置する。
9 月 8 日	袋井消防署「職員交通安全会」を設立する。
11 月 12 日	森分署庁舎増改築工事（2,880 万円）が竣工される。
昭和57年 4 月 1 日	職員 1 人増員、実数 86 人となる。
	組管内ガス事故発生時における応急対策に関する協定書を締結する。
7 月 3 日	陸上貨物運送事業労働災害防止協会静岡県支部より救急車 1 台寄贈され、本署救急車を更新する。
8 月 26 日	現場本部車（日産キャラバン 9 人乗り ハイルーフV）購入、本署に配置する。
11 月 18 日	森分署消防ポンプ車（イスズエルフ K-T L D46 森田ポンプA-2 級）を更新する。
昭和58年 4 月 1 日	袋井市外 2 町消防組管内ガス保安対策連絡会議を設立する。
昭和59年 1 月 1 日	通信指令室を防災センターに移転、同時に消防救急指令装置を更新する。
1 月 31 日	本署待機室の一部改造工事を行う。
7 月 27 日	査察車（トヨタカーリーナV）を本署に配置する。
8 月 8 日	袋井市よりマイクロバス（三菱 29 人乗り）寄贈、本署に配置する。
3 月 31 日	職員 2 人退職により、実数 84 人となる。
昭和60年 4 月 1 日	本部職員 12 人、本署職員 36 人、森分署職員 19 人、浅羽分署職員 17 人となる。
昭和61年 2 月 28 日	小型動力ポンプ付水槽車（三菱、シバウラ B-2 級搭載 10t）を本署に配置、1 号車を更新する。

7 月 21 日	日本消防協会より救急車（日産キャラバン 2 B 型）が寄贈され本署に配置、救急 2 号車を更新する。
7 月 30 日	資材運搬用トラック（マツダタイタン 2 t）を購入、本署に配置する。
9 月 13 日	日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車（三菱 A－1 級）が寄贈され浅羽分署に配置、袋井 8 号車を更新する。
昭和 62 年 3 月 16 日	本署庁舎一部増改築工事を行う。
4 月 1 日	職員 1 人採用により、職員数 85 人となる。
8 月 17 日	査察車（トヨタカローラ V）を購入する。
昭和 63 年 4 月 1 日	本部職員 21 人（うち通信員 8 人）、本署職員 28 人、森分署職員 18 人、浅羽分署職員 16 人となる。
5 月 10 日	森分署、浅羽分署救急車（トヨタ 2 B 型）を更新する。
8 月 31 日	職員 1 人退職により、82 人となる。
平成 元年 3 月 10 日	浅羽分署庁舎増改築工事（1,224 万円）が竣工される。
4 月 1 日	職員 1 人採用により、職員数 83 人となる。
10 月 14 日	森分署小型動力消防ポンプ付水槽車（ミツビシ シバウラ B－2 級搭載 7 t）を配置、4 号車を更新する。
11 月 24 日	救急 1 号車（日産キャラバン 2 B 型）を更新する。
平成 2 年 4 月 1 日	職員 2 人増員、実数 85 人となる。
4 月 26 日	静岡県代表として、全国消防長会関東支部消防職員意見発表大会に出場する。
9 月 28 日	指令車（クラウン）を更新する。
10 月 29 日	浅羽分署消防ポンプ車（三菱 U－F E 337 B 森田ポンプ C D－1 型動力ホースカー付）を更新する。
12 月 20 日	現場本部車（ハイエース）を更新する。
平成 3 年 4 月 1 日	職員 2 人採用、1 人市長部局へ、実数 86 人となる。
6 月 7 日	「袋井市外 2 町消防組合管内婦人防災隊連絡会」を設立する。
7 月 16 日	袋井 1 号車、小型動力消防ポンプ（B－2 級）を更新する。
10 月 14 日	気象観測装置を更新する。
12 月 24 日	職員定数条例改正、定数 96 人となる。
平成 4 年 2 月 20 日	マイクロバス（トヨタコースター 29 人乗り）を更新する。
3 月 16 日	救急波無線を整備する。

4月1日	職員2人採用、実数88人となる。
9月17日	小型動力ポンプ4台（ラビット C－1型）を更新する。
10月1日	袋井消防署救助訓練塔工事を起工する。
10月7日	広報車（三菱パジェロ）を更新する。
11月2日	森分署消防ポンプ車（三菱U－FE337B 4輪駆動 森田ポンプCD－1 電動ホースカー付）を更新する。
11月7日	袋井市田町婦人防災隊が静岡県知事褒章を受賞する。
12月13日	消防創立30周年記念「東海道どまん中ファイヤーフェスティバル」を開催する。
12月21日	職員定数条例改正、定数105人となる。
平成5年2月26日	袋井消防署救助訓練塔が完成する。
3月31日	職員1人退職により、87人となる。
4月1日	職員5人採用、実数92人となる。
7月14日	袋井消防署浅羽分署新庁舎建設工事を起工する。
9月1日	森町ライオンズクラブより救急訓練用人形が寄贈される。
9月8日	患者監視装置を導入する。
10月26日	県高圧ガス、危険物防災訓練が袋井市（松本油脂）で開催される。
11月15日	消防指令救急波接続装置を設置する。
11月24日	非常用電源装置を設置する。
平成6年3月1日	磐田郡浅羽町浅名1045番地に浅羽分署新庁舎が落成し、移転する。
3月31日	職員2人退職により、実数90人となる。
4月1日	職員6人採用、実数96人となる。
	組織機構改革に伴い、課制（管理課、予防課）を導入する。
9月12日	本署・森分署・浅羽分署に可搬ポンプ台車付（ラビットC－1）を配置する。
平成7年3月24日	袋井消防署に初の高規格救急車が導入され、救急袋井2号車（高規格救急車 日産パラメディック）を更新する。
	化学車（日野U－GD3HGAA 畠山ポンプA－2級）を更新する。
3月31日	職員1人退職により、実数95人となる。
4月1日	職員5人採用、実数100人となる。
5月29日	袋井4号車、小型動力ポンプ（ラビット B－2級）を更新する。
11月24日	30m級はしご付消防ポンプ自動車（日野KC－PR4FPDF 森田ポンプ

	A－2級）購入、本署に配置する。
12月12日	救助工作車（Ⅱ型 日野KC－GD1JGBA 森田ポンプ）を更新する。
平成8年3月31日	職員3人退職により、実数97人となる。
4月1日	職員5人採用、市長部局から1人、実数103人となる。
5月22日	初の救急救命士が誕生する。
7月9日	袋井1号車 小型動力ポンプ（ラビット B－2級）を更新する。
7月26日	査察車（61号車 スズキ軽バン）を更新する。
11月26日	救急森1号車、救急浅羽1号車ともに高規格救急自動車（トヨタハイメディック）に更新する。
平成9年3月31日	職員1人退職により、実数102人となる。
4月1日	職員3人採用、実数105人となる。
	消防緊急通信指令システム（NECⅡ型）を導入、運用開始する。
7月10日	査察車（65号車 トヨタカルディナバン）を更新する。
11月25日	救急心電図伝送装置導入（袋井市民病院）運用開始する。
平成10年3月10日	消防ポンプ自動車（2号車 三菱KC－FE538B 森田ポンプCD－1型 電動ホースカー付）を更新する。
	救急袋井1号車高規格救急自動車（トヨタハイメディック）を更新する。
3月31日	職員3人退職により、実数102人となる。
4月1日	職員2人採用（内1人女性）、市長部局から1人、実数105人となる。
4月28日	救急救命士（女性）が誕生する。
12月1日	救急心電図受信装置（森町病院）運用開始する。
平成11年3月31日	職員1人退職により、実数104人となる。
4月1日	職員1人採用、1人市長部局へ、実数104人となる。
4月8日	職員1人退職により、実数103人となる。
11月15日	日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車（ニッサンA－1級）が寄贈され、浅羽分署に配置、袋井8号車を更新する。
12月21日	本部、本署庁舎の耐震補強工事が完成する。
平成12年3月31日	職員1人退職により、実数102人となる。
4月1日	袋井市外2町消防組合、袋井地域環境厚生施設組合及び袋井市広域施設組合が統合し、袋井市森町浅羽町広域行政組合が発足する。

	職員 4 人採用、1 人(その他の職員)組合事務局へ、実数 105 人となる。
7 月 10 日	袋井 4 号車、小型動力ポンプ（ラビット B－2 級）を更新する。
7 月 31 日	磐田信用金庫創立 50 周年記念により、指令車（トヨタクラウン）1 台、 現場本部車（トヨタグランビア）1 台及び連絡車（トヨタエース）2 台寄贈され、 51 号車（指令車）、62 号車（現場本部車）、63・64 号車（森・浅羽分署連絡車） を更新する。
8 月 17 日	職員 1 人退職により、実数 104 人となる。
12 月 25 日	訓練塔塗装改修工事が完成する。
平成 13 年 3 月 1 日	職員 1 人を県消防防災航空隊へ派遣する。
3 月 31 日	職員 4 人退職により、実数 100 人となる。
4 月 1 日	職員 5 人採用、市長部局から 2 人、1 人（消防職員）組合事務局へ、実数 105 人 となる。
7 月 26 日	(株)アクト・メイト創立 20 周年記念により、広報車（スズキエスクード）1 台 寄贈され、73 号車（本部広報車）を更新する。
9 月 17 日	森分署移転新築工事に伴う起工式が行われる。
平成 14 年 3 月 20 日	浅羽分署ホースタワー塗装改修工事が完了する。
3 月 31 日	職員 1 人退職により、実数 104 人となる。
4 月 1 日	職員 1 人採用、実数 105 人となる。
8 月 28 日	周智郡森町森 48 番地の 2 に森分署新庁舎が落成し移転する。
10 月 1 日	消防本部、本署、森分署及び浅羽分署が管理市のグループウェアに接続され、 全署所及び管理市との LAN によるネットワークが構築される。
10 月 24 日	職員定数条例改正、定数 109 人となる。
12 月 31 日	職員 1 人退職により、実数 104 人となる。
平成 15 年 1 月 31 日	袋井 1 号車（水槽付ポンプ車）を更新する。
3 月 31 日	職員 1 人退職により、実数 103 人となる。
4 月 1 日	職員 2 人採用、市長部局から 1 人により、実数 106 人となる。
8 月 8 日	森分署庁舎ガラス飛散防止工事が完了する。
平成 16 年 3 月 31 日	職員 1 人退職により、実数 105 人となる。
4 月 1 日	職員 4 人採用、実数 109 人となる。 職員 1 人を県防災局緊急防災支援室へ派遣する。

7 月 30 日	袋井消防署ホースタワー・車庫庇塗装工事が完了する。
12 月 31 日	職員 1 人退職により、実数 108 人になる。
平成 17 年 1 月 12 日	救急袋井 2 号車（高規格救急車）を更新、緊急消防援助隊へ登録する。
1 月 27 日	森分署 4 号車（水槽付ポンプ車）を更新する。
3 月 31 日	職員 4 人退職により、実数 104 人となる。
4 月 1 日	袋井市と浅羽町の合併により、袋井市森町浅羽町広域行政組合から、 袋井市森町広域行政組合に名称変更する。 職員 3 人採用、市長部局から 2 人により、実数 109 人となる。 職員 1 人を県消防学校へ教官として派遣する。
11 月 1 日	職員定数条例改正、定数 119 人となる。
12 月 21 日	浅羽分署 6 号車（ポンプ車）を更新する。
平成 18 年 3 月 10 日	浅羽分署非常用発電機燃料タンク増設工事が完了する。
3 月 31 日	職員 2 人退職により、実数 107 人となる。
4 月 1 日	職員 3 人採用、市長部局から 1 人により、実数 111 人となる。
7 月 22 日	連絡車 6 1 号（軽バン）を更新する。
9 月 30 日	職員 1 人退職により、実数 110 人になる。
平成 19 年 2 月 28 日	救急浅羽 1 号車（高規格救急車）を更新する。
3 月 31 日	職員 4 人退職により、実数 106 人となる。
4 月 1 日	職員 5 人採用、市長部局から 1 人、1 人市長部局へ、実数 111 人となる。
11 月 29 日	ヴィッツ（事務用連絡車）を購入する。
平成 20 年 2 月 28 日	救急森 1 号車（高規格救急車）を更新する。
3 月 31 日	職員 4 人退職により、実数 107 人となる。
4 月 1 日	職員 7 人採用、市長部局から 2 人、2 人市長部局へ、実数 114 人となる。
7 月 3 日	全国消防長会技術委員会を袋井市内にて開催する。
7 月 31 日	職員 1 人退職により、実数 113 人になる。
8 月 29 日	静岡県代表として、第 37 回全国消防救助技術大会（ロープブリッジ渡過）に 出場する。
10 月 30 日	袋井消防署袋井 31 号車（はしご車）のオーバーホールを終了する。
12 月 12 日	査察車（65 号車 ホンダステップワゴン）を更新する。
12 月 31 日	職員 1 人退職により、実数 112 人になる。

平成21年 2 月 27 日	森分署袋井 5 号車（ポンプ車）を更新する。
3 月 31 日	職員 5 人退職により、実数 107 人となる。
4 月 1 日	職員 7 人採用、市長部局から 3 人、2 人市長部局へ、実数 115 人となる。
6 月 1 日	職員 1 人採用により、実数 116 人となる。
6 月 30 日	職員 1 人退職により、実数 115 人となる。
8 月 20 日	静岡県代表として、第 38 回全国消防救助技術大会（ロープブリッジ渡過）に出場する。
11 月 30 日	職員 1 人退職により、実数 114 人となる。
12 月 31 日	職員 1 人退職により、実数 113 人となる。
平成22年 2 月 24 日	救急袋井 1 号車（高規格救急車）を更新する。
3 月 1 日	職員 1 人を県消防防災航空隊へ派遣する。
3 月 31 日	職員 5 人退職により、実数 108 人となる。
4 月 1 日	職員 6 人採用、市長部局から 3 人、1 人市長部局へ、実数 116 人となる。
8 月 10 日	中東遠地域消防指令業務共同運用推進協議会設立
平成23年 3 月 11 日	東日本大震災に緊急消防援助隊静岡県隊として救急隊・後方支援隊 40 名を派遣 (期間 平成 23 年 3 月 11 日～平成 23 年 4 月 1 日)
3 月 31 日	職員 10 人退職により、実数 106 人となる。
4 月 1 日	職員 7 人採用、市長部局から 2 人、1 人市長部局へ、実数 114 人となる。
平成24年 3 月 31 日	職員 8 人退職により、実数 106 人となる。
4 月 1 日	職員 6 人採用、市長部局から 2 人、2 人市長部局へ、実数 112 人となる。 森分署 2 名増員し、23 人となる。 中東遠地域 5 消防本部消防通信指令事務協議会設立 中東遠地区 5 消防本部（袋井市森町広域行政組合袋井消防本部、御前崎市消防本部、 菊川市消防本部、掛川市消防本部、磐田市消防本部）にて中東遠消防指令センター の運用を開始し、職員 6 人を派遣する。 中東遠消防指令センターの運用開始に伴い、警防課通信指令室を廃止する。
4 月 14 日	新東名高速道路が開通する。
8 月 7 日	静岡県代表として、第 41 回全国消防救助技術大会（はしご登はん）に出場する。
平成25年 2 月 25 日	全国共済農業協同組合連合会静岡県支部、遠州中央農業協同組合より 高規格救急車 1 台寄贈され、救急袋井 3 号車を更新する。

2月28日	職員1人退職により、実数111人となる。
3月1日	袋井7号車（化学車）、41号車（救助工作車）を更新する。
3月31日	職員5人退職により、実数106人となる。
4月1日	職員定数条例改正、定数123人となる。 職員9人採用、市長部局から1人、1人市長部局へ、実数116人となる。 職員1人を県消防学校へ教官として派遣する。
5月31日	袋井消防署山梨分遣所新築工事に伴う起工式が行われる。
6月1日	職員1人を、緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練静岡県実行委員会事務局員として派遣する。
10月30日	静岡県高圧ガス危険物防災訓練が袋井浄化センターで開催される。
11月26日	静岡県西部地区消防長会大規模災害訓練をエコパにて開催する。
平成26年2月21日	袋井2号車（ポンプ車）を更新する。
3月28日	袋井消防署山梨分遣所落成式が行われる。
3月29日	新東名高速道路遠州森町スマートインターチェンジが開通する。
3月31日	職員2人退職により、実数114人となる。
4月1日	職員9人採用、市長部局から1人、1人市長部局へ、育児休業1人、実数122人となる。 袋井市上山梨三丁目27-4に袋井消防署山梨分遣所を開所、職員10人を配置、水槽付ポンプ自動車1台、高規格救急自動車1台を配備する。
7月31日	静岡県代表として、第43回消防救助技術関東地区指導会（ロープブリッジ救出）に出場する。
10月25日	袋井市メロプラザにて静岡県防火のつどいが開催される。
11月5～6日	緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練が静岡県西部地区で開催される。 袋井消防本部では図上訓練を実施する。
11月7日	市より指揮車が無償譲渡され、袋井52号車（指揮支援車）として運用開始する。
平成27年2月25日	袋井3号車（水槽付きポンプ車）を更新する。
2月26日	救急袋井2号車（高規格救急車）を更新する。
3月31日	職員3人退職により、実数119人となる。
4月1日	職員4人採用、市長部局から1人、1人市長部局へ、育児休業1人、実数123人となる。

7 月 17 日	静岡県代表として、第 44 回消防救助技術関東地区指導会（ロープブリッジ救出）に出場する。
平成 28 年 2 月 18 日	袋井 8 号車（水槽付きポンプ車）を更新する。
2 月 23 日	袋井 62 号車（指揮車）を更新する。
3 月 30 日	東名高速道路小笠パーキングエリア上下線に緊急開口部を設置（掛川市）
3 月 31 日	職員 4 人退職により、実数 119 人となる。
4 月 1 日	職員 4 人採用、市長部局から 2 人、2 人市長部局へ、育児休業 1 人、実数 123 人となる。
	消防救急デジタル無線正式運用開始
7 月 31 日	職員 1 人退職により、実数 122 人となる。
10 月 30 日	職員 1 人退職（育児休業定数外）
11 月 30 日	袋井 63 号車（連絡車）を更新する。
平成 29 年 2 月 27 日	救急浅羽 1 号車（高規格救急車）を更新する。
3 月 8 日	袋井市森町広域行政組合袋井消防本部、袋井市消防団が平成 28 年度消防功労者 消防庁長官表彰竿頭授受章
4 月 1 日	職員定数条例改正、定数 130 人となる。
	職員 1 人採用、市長部局から 2 人、2 人市長部局へ、実数 123 人となる。
12 月 31 日	職員 1 人退職により、実数 122 人となる。
平成 30 年 1 月 31 日	袋井 66 号車（支援車）を更新、緊急消防援助隊へ登録する。
2 月 16 日	袋井 64 号車（連絡車）を更新する。
3 月 31 日	職員 3 人退職により、実数 119 人となる。
4 月 1 日	職員 4 人採用、市長部局から 4 人、3 人市長部局へ、実数 124 人となる。
7 月 1 日	救急ボイストラ使用開始
7 月 5 日	袋井消防庁舎・袋井市防災センター建築に伴う起工式が行われる。
11 月 1 日	袋井 31 号車（小型はしご付きポンプ車）を更新する。
12 月 31 日	職員 1 人退職により、実数 123 人となる。
平成 31 年 3 月 1 日	職員 1 人を県消防防災航空隊へ派遣する。
3 月 31 日	職員 3 人退職により、実数 120 人となる。
4 月 1 日	職員 4 人採用、市長部局から 4 人、3 人市長部局へ、実数 124 人となる。